

# 「地域全部が病室」と生活密着の医療を

鶴橋中央診療所

院長

吉永敏男氏

訪問者

真理アンヌ

## 必要な機械・設備を すべて揃える

**真理** ご立派な診療所ですね。個人病院としては非常に大規模なものだと思いますが、どういった設備に力を入れていらっしゃるんですか。

**吉永** とにかく患者さんに対して徹底した診療をするために、必要最小限を入れているだけですよ(笑)。

**真理** これが必要最小限ですか。診断用の機械はもちろん、リハビリ室から健康相談室、そのほかありとあらゆる設備が揃ってますね。  
**吉永** 患者さんの問題点をはつきりさせることが正しい治療を行なう為の第一歩ですからね。それによって、しかるべき専門機関へ送ることもできますしね。

**真理** リハビリ室にこれだけのスペースをさいていらっしゃるって、珍しいんじゃないかしら。

**吉永** この近辺は老人だけの家族が多く、しかも長屋が多くて、家が狭いんですよ。ですからお年寄りの方に思う存分運動をしていただくこと、こうした施設を備えたわけですね。  
**真理** こちらで電気療法も受けられるんですか。

**吉永** はい。ただし痛みを除くことが目的ではなくて、自由に運動するために妨げになる痛みを取るといふ発想なんですよ。

**真理** みなさん喜ばれますでしょうね。  
**吉永** 患者さんが楽しんで通って下さるの

で、よかったですね。

**真理** 待合室ではビデオを利用して健康番組を流していらっしゃいますね。

**吉永** 待ち時間に、少しでも役に立つ情報を得ていただくことを考えました。なるべくお待たせしないことが肝心なんですけどね。

**真理** 受付も明るいし、薬局もお薬が全部見えるようになっていいですね。

**吉永** なるべくオープンにして、患者さんとストレートに接することを心がけています。薬は緊急用で、特に急病の方だけにお出しします。あとは処方箋を書いて、町の薬局で調剤していただくようにしています。

**真理** 医薬分業ですね。

**吉永** 鶴橋というところは、卸売市場があるので、午前二時頃から仕入れに来る方が多いんです。そういう方は病院や診療所の診察時間と合わない生活をしていらっしゃるために、薬局を利用されることがほとんどです。それで薬局から紹介されて来られる方も多いです。地域の薬局とのコミュニケーションも密にしています。先にも述べましたけれど、核家族化が非常に進み、老人のみの家族が多いという地域特性があるのですが、この場合でも、薬局を通して情報伝達することができ、大いにたすかっています。今のところかなりいい状態で医薬分業の効果が上がっているんですよ。

## 医療は心の問題

### 地域医療にかける

**真理** 理学療法や漢方薬を取り入れられたり、内科の病院としては画期的ですよ。開



吉永敏男院長

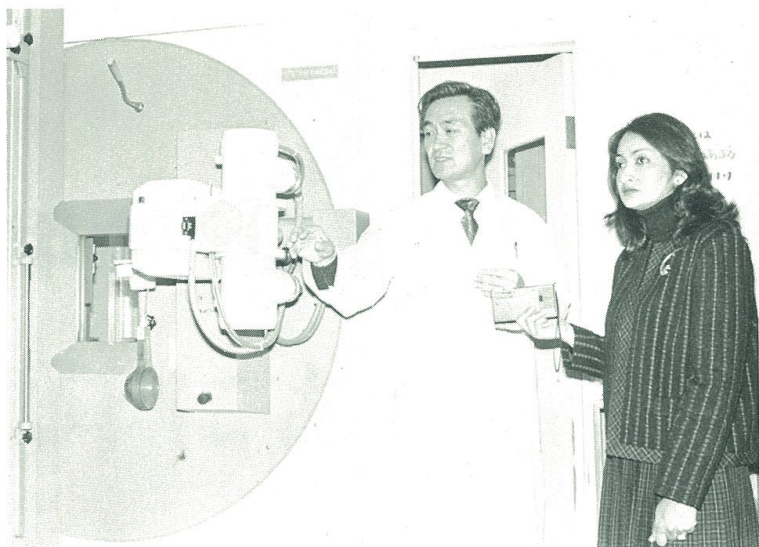


対談中の吉永院長(左)

朝まだき、人々が眠りをむさぼり続けているころ、一日のうちでも最もにぎわう場所が卸売市場です。大阪市の鶴橋も、そんな市場のある町。生活感のにじむ活気ある土地がらです。この鶴橋の地に開業してはや20年。「鶴橋中央診療所」は地域の人たちの生活に密着した医療を貫いてきました。

個人病院としては破格の医療機械の数々、そして随所に採り入れられている患者さん本位の気のきいた設備には、吉永院長の医療の信念が如実に語られています。地域医療に携わる医師は地域の人々と呼吸を合わせなければならないとおっしゃる院長先生は、まさに地域の人々に溶けこんだ診療ぶりを実践なさっています。「地域全部が私の病室」というお言葉に、真の地域医療のあり方を教えられたような気がしました。





眞理さんを案内する吉永院長（左）



リハビリ室



同診療所外観

吉永 びっくりするほど高価な機械はないんですけどね。患者さん本位の診療に必要なものだけは、と揃えました。借金が返せる範囲でのことですしね。まあ一般に言われている算術からは、大分縁遠い経営です(笑)。

### 環境衛生も含め

### 予防医学に努力

眞理 これだけ患者さん本位の診療をなさるもには、どんな理念がおりなのかしら。

吉永 私は、地域医療というものは、地域にいる一人一人の方に対して、どこまで真心を尽くせるかだと考えています。いわば地域の方々と同じ呼吸をするというか、患者さんと同じレベルの考え方をする必要を感じています。医学は頭がよくないときませんが、医療は頭がよすぎるとダメだと、そう考えているんですよ(笑)。

眞理 そういうお考えのお医者さまって、本当に少ないと思いますわ。

吉永 多くの方は私と同じようなお考えだと思えますよ。ただ、医療には政治性がつきまといまわすし、体制の影響をもちに受けます。その辺でなかなか思うようにならないだけなんじゃないでしょうか。私はバカ正直に、思ったことをすぐ実行に移しただけにすぎませんよ(笑)。

眞理 こうしてお話を伺っていると、銀行が全額融資なさった気持ちばかりですわ。診療時間の方は、どうなっているんでしょう。

吉永 朝九時から夜八時までです。

眞理 間にお休みが入るんですか。

吉永 一応、十二時で診察は一段落します。そのあと往診、リハビリなど、いわゆる在宅療養の患者さんを治療するわけです。

眞理 大変ですわねえ。休まれる暇がないみたいですね。

吉永 医師仲間からは、大変だから病室をつくって入院させれば良いとよく言われるんですよ。でも、私は地域全体が、私の病室だと考えています。

眞理 あちこちのお宅を回りながら、次々と病室を回られているおつもりで…。

吉永 そうです(笑)。そう考えれば、別に面倒でも何でもないわけですわ。

眞理 素晴らしい発想だと思いますわ。内科でいらしても、漢方やハリも採り入れていらっしゃるし、考え方が自由なんですよ。

吉永 ハリや漢方にしても、要は患者さんの納得のいく治療を、と思っただけです。たとえば漢方は副作用がありませんしね。リユーマチなどでは、新薬は速効性があるんですが、必ず副作用を伴います。顔がハレてきたりしますからね。

眞理 とにかくいいものは、とらわれず採り入れていらっしゃるんですね。将来の夢はどんなことでしょうか。

吉永 これからは、病気を治療するだけではなく、病気になるないことを積極的に考えるべきだと思います。いわゆる予防医学ということですが、環境衛生も含めて、この方面でお役に立てればと考えています。

眞理 どうぞこれからも、地域のみなさまのために、素晴らしい医療にお励み下さい。今日はいいお話を、ありがとうございました。

業されてから何年になるんでしょう。

吉永 二十年になります。

眞理 二十年の間に、徐々に大きくなってきたわけですか。

吉永 最初は夜だけ開業して、昼間は勤務医として働いていました。ところが勤務医は医学的には有利ですが、医療の立場からは物足りない面があると気づきましてね。それで開業に専念したんです。

眞理 医学と医療との違いといえますか？

吉永 医学というのは学問です。勤務医をしていれば専門の分野に詳しくなりますし、学問的には申し分ありません。でも、医療というのはむしろ心の問題ですからね。その辺が違ってくると思うんですよ。

眞理 それで医療の方に専念されたわけ

すね。

吉永 はい。地域医療にかけてみたいと考えました。幸い取引先の銀行がバックアップして全額融資してくれましたので、自己資金なしで新築できました。

眞理 それだけの信用がございましたか？

吉永 ありがたいことだと思っています。新築して一年ほどたちましたら、患者さんの往来も激しくなってきましたね。隣のガレージの持ち主の方が、このままでは手狭になるからガレージを買取らないかと勧められたんです。それで今の敷地が確保できたわけです。

眞理 これだけの設備を整えられるには、

相当の資金がお入り用でしたでしょう。

吉永 そうですね。

眞理 そうですね。

吉永 そうですね。

眞理 そうですね。

吉永 そうですね。

眞理 そうですね。

吉永 そうですね。

眞理 そうですね。